

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



イオン労組が協力した陽高県守口堡村の小学校付属果樹園。バックは万里の長城

Contents

GEN第8回会員総会のお知らせ	P 2
GENの緑化協力 - 2 - 地球環境林	P 3
春のワーキングツアー報告	P 4
夏のワーキングツアーご案内	P 7

2002.5

85

緑の地球ネットワーク 第8回会員総会のお知らせ

最近、中国関係のニュースが絶え間なくながれています。政治、経済、社会……日中国交正常化30周年のせいばかりではないようです。よきにつけあしきにつけ、日中関係が緊密になってきたことのあらわれでしょうか。

さらに今春は黄砂が多く、新聞やテレビでもひんぱんに報道されました。黄砂をつうじて、中国の環境問題が日本にとっても世界にとっても重要な問題であるという認識が徐々に広まってきたようです。

実際の功罪はさておき、黄砂が、中国の環境に対する日本人の関心を高めるといっていいでしょう。

そうしたなかで、GENを含む環境NGOの中国における活動もまた注目されてきています。政府間協力の対象になりにくい貧困地域の環境問題に、たくさんのNGOが積極的に取り組ん

でいるからです。

今回の会員総会記念イベントには、中国の環境問題や日本の対中ODAに詳しく、昨年夏のGENのワーキングツアーにも参加された東北大学東北アジア研究センター助教授の明日香壽川さんを招いて、GENの高見事務局長と中国の環境問題や日中環境協力についておおいに語り合ってください。

なお、「対談～日中環境協力を語る」は一般に公開しています。また、GENの会員総会には、会員以外の方でもご参加いただけますので、お気軽にどうぞ。会員の方には、あらためて詳しい案内をお送りします。

【緑の地球ネットワーク

第8回会員総会】

日時：6月22日（土）13時30分～16時30分

対談～日中環境協力を語る

13時30分～15時20分

講師：明日香壽川さん（東北大学東北アジア研究センター助教授）／高見邦雄（GEN事務局長）
参加費：700円（GEN会員無料）

GEN第8回会員総会

15時30分～16時30分

場所：大阪市立弁天町市民学習センター（ORC200ビル7階。JR環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口からビルに直通通路あり）

懇親会のご案内

- ・場所：ティティカカ（ORC200ビル3階）
- ・時間：17時30分～19時30分
- ・会費：3,100円
- ・申込み締切り：6月18日
- ・申込み：GEN事務所まで
GEN会員でなくてもご参加いただけます。

関東ブランチから みどりの感謝祭出展報告

中村 美智留（高校生）

4月29日緑の日、東京日比谷公園にて<みどりの感謝祭>がおこなわれました。予想以上に広がったスペースは10畳程でしょうか。総ブース数60～70というなかなか大規模なお祭りです



黄土高原の子どもに人気のトラが大活躍

た。そのわりに植林関係のものばかりというわけでもなく、特にアジアのものといったら私たち（GEN）ぐらいでした。そんな特性や中国物品を前面に押し出したのがよかったのでしょう。15人以上も集まったボランティアの売り子たちの努力と愛らしさ(?)も相まって、千客万来の大盛況となりました。展示していた橋本紘二さん撮影の黄土高原の写真パネルに夢中で見入る方も少なくありませんでした。

また人形劇（ワーキングツアーで現地の人との交流のために用いたものの日本語版）ですが、ブースから少し離れた大ステージでは式典の他にクイズショーや講演もありましたが、むしろブース側ではそのようなイベントをお

こなうところは珍しく、人形劇というアイデアはとても良かったのではないのでしょうか。劇を終えた後に主役であるトラを使いながら紙芝居を見せ、森林破壊の過程を説明する、という狙いもとてもスムーズにきました。ただ、肝心の対象者である子どもが少なく、人集めに苦労しました。2時間おきに計4度の公演を予定していましたが、特に午後は子どもたちもいなくなり結局3回で終わってしまったのは残念でした。

今後の課題としては客層に見合ったアピールの方法を考えていくことが重要で、例えば人形劇の内容などはまだまだ加味することが多いように思います。机の配置法（パネル展示と雑務所の区切り）など参考になる点も多く、これからも有効に活かしていければと思います。

黄砂のふるさとで ～春の黄土高原ワーキングツアー報告

今春は、4つのツアーが大同を訪れました。3/24～31のGENのツアー（31人）、4/3～9のOFS（オリエンタルランド労組）のツアー（24人）、4/16～23の東北電力総連のツアー（24人）、4/24～29の（株）リコー社会環境本部のツアー（8人）でした。この会報では、GENのツアー日誌の一部と、OFS、東北電力総連のツアー参加者手記をご紹介します。

3月24日（日）

はじめて見た中国はやっぱり黄砂でかすんでいたけど、ニュースで見たように砂まみれではなかったので安心した。空港からバスに乗る。中国の道はすごかった。車は右側通行だし、道の真ん中に人は立っているし、交通ルールは守られていなさそう。それでも車や人をかわしてスイスイ運転していくバスの運転手さんはとてもすごい。（中略）北京の街はとてもパワーがある元気な街という印象を受けた。派手な看板のせいかもしれないけど。

夜行列車に乗って、明日の朝には大同。これから7日間とても楽しいツアーになりそうだなあ。（寺尾恵）

3月25日（月）

目をあけたら、もう景色が変わっていた。レンガでつくられているような、あんな家を見たのははじめてで、三嶺村も映画みたいだなあと思ってしまった。水がなくなると10キロ下の村に買いに行かないといけならしい。うーん、大変だ……。

（中略）覺山寺では記念植樹をした。でも、私は実際にはあまりやっていない。私がスコップを持ってもたついていると、地元のおじさんが、見てられんとばかりに、私のスコップをとり、作業をしてくれた。とっても情けなかった。明日からの作業は絶対にがんばってやると心に誓った。（原田佳苗）

3月26日（火）

植物園に着いてから、午前中は植樹作業。子どもたちが集まってきて、お手伝いしている。子どもに負けないように働かねば。午後からは山の上へ。説明いただいたとおり、陽坡にはあまり植物は育っていないが、陰坡の方には多くのものが育っているのが、稜線を境にはっきり分かれているのを見てとれる。ひとつ向こうの山の上の方では、毛沢東の時代、20年ほど前に植えられたというアブラマツが繁茂してい

る。上り道の途中では、ナツメ、半常緑のシャクナゲの一種、ナラなどが見られる。ナラの大きいものは8mほどで、樹齢は30年くらいだそう。午前中に植樹したナラも、30年後にはこれくらいになるのだろうか。（八木丈二）



快晴の空の下、霊丘自然植物園で作業。

3月28日（木）

カササギの森で植物を植える。

今までの土地では、「沙漠」といった景色がほとんどだったけど、ここでは川が流れていたり、頂上からの眺めも、めちゃめちゃ素晴らしくて、感動。少し寒かったけど、風も気持ちよかった。斜面にて作業をしたのですが、植木や砂を運ぶのに、何度も山の斜面を行き来して、足がフラフラ……。でも1つひとつ願いを込めて、植えました。「みんなちゃんと大きく育ちますように……。」（山口靖枝）

3月27日（水）

果樹園に行き、農家の方たちや子どもたちと一緒にクルミを植える。果樹園のわきには川が流れており、水はそこからくみ取った。休憩時には、人形劇をした。まず、私たちがやって、その後、台本と人形を子どもたちに渡して、子どもたちも披露してくれた。（中略）今回のツアーで最も楽しみとしていたのが農村訪問でした。子どもたちと一緒に走り回ったり、農家の方の家で一緒にご飯を食べ、お話をし、寝ることができたことは、本当にかげがえのない経験でした。農家の方たち

と接しながら、力強さとたくましさ、そしてあたたかい心を感じました。また、家を出れば、目の前の通りで元気に子どもたちが遊んでいる……そんな風景がとても印象的でした。向かいの山に沈む感動的な夕日を子どもたちと遊びながら一緒に見れたことも心あたたまる思い出です。

私は中国史も植林についても、中国語もほとんど何もわかりません。日本との関係、現実の生活等厳しい条件の中で、今回、このようなツアーに参加できたことを感謝します。良い部分、美しい部分、そして厳しさもいっぱい見聞きして、一つでも多くのことを吸収したいと思います。（澤田裕子）

3月29日（金）

センターでの作業

屋外でアンズの苗を鉢に取った。ペテランズは日頃盆栽趣味などの実力で手際よく進めて、またヤングも頑張っていて骨おしむことなく働き、かなりの量をこなした。

何と6万坪をレンガ塀で囲ったセンターのなかでの作業で、ヘイの中(?)を感じた。ハウスの中の苗の数々、限りない明るさ(希望)を感じた。(大坂戯司)

3月31日（日）

今回の黄土高原ワーキングツアーで感じたことは、人類が発展、豊かになるためには水がなくてはならぬ条件になるということだ。今回訪れた各農村でも、川のある近くの農村は比較的豊かな生活をしているものの、水のない農村ではただ生きているだけの生活をしている感をいめない。

いずれにせよ今回のツアーでいままですの都会地でのみエコノミックアニマルとしてとびまわっていた自分にとって、話には聞いていましたがこれほど貧富の差があるとは、非常に問題があるということを実感させていただきました。（楠森至朗）



ワーキングツアーとは何か……

山田 恭嗣 (OFS (オリエンタルランド労働組合) 中央執行委員)

ここ数年、テレビや新聞のニュースなどで「中国」という文字を目にしないう日はないくらい、中国と日本の関係は日に日に深まりを見せている。中国沿岸部の経済発展や日本企業の中国進出といった経済状況のもと、政治外交においては、中国は靖国参拝への抗議、抗日記念施設の改修増設をおこなうなど、日中国交正常化30周年とは思えない状況となっている。このような中で、我々がおこなった植樹、緑化活動にはどのような意義があるのか……。

OFSはこのツアーを実施して今回で3回目となるが、ツアーの名前に「ボランティア」という名称はあえて使わず、「自己啓発」という冠をつけている。それは、このツアーによって、我われは確かに黄土高原にマツやアズノの苗を植えたが、あの広大な黄土高原と、日本では考えられないような厳しい生活環境の中で生きる中国の村の人たちを見ると、「ボランティア」とい

えるような立派なことではできていないのではないかと感じるからである。

逆に、我々自身がこのツアーを経験したことで、無意識のうちに、我々の心にも色々な苗が植えられていたことに気付く。それは、中国や日本について考える苗、地球環境について考える苗、人について考える苗、子供の純粋さを感じる苗……数限りない苗が心に自然と植えられるツアー、それがこのワーキングツアーであり、だからこそ「自己啓発」ツアーなのだ、今回参加してあらためて実感した。

「悪い結果はすぐ出るけど、よい結果はなかなかでない……」高見さんの言葉は、植樹だけでなく日中関係についても同じだと感じた。緑化は20年、50年先の未来へ向けた、日中両国のための活動である。そして今の我々に必要なのは、目先の1、2年だけを考えた利害関係ではな

く、様々な課題をいかに長い目で見て解決していけるか、そのような「長い目」をもつことではないだろうか？

20年後、日中国交正常化が50周年をむかえる時には、ぜひとも日中の民間で、できれば数人对数人というお互いに顔の見える輪が、大きく広がっていることを期待する。そして、そのために自分自身に何ができるかを考え、行動に移していきたい。それが自分にもできることを感じさせてくれたのが、今回のツアーであった。



大同団結 海拔1,450メートルの思い出

栗橋 邦雄 (東北電力労働組合弘前支部)

4月16日、仙台発大連経由北京着。飛行場は心なし香菜の匂いがする。3回目の中国、この匂いに小生のDNAが騒ぎ出し、恋人に逢うような興奮を感じる。

大同市は初めて訪れる都市である。植樹活動のほか、ホームステイと小学校の交流会が楽しめた。列車の中で、交流会で歌う中国の歌「小城故事」を



練習する。歌詞はコピーしてきたが、メロディーが今ひとつはつきりしないまま練習していると、女性列車員、張女史が教えてくれるという。張女史は若くてチャーミング、歌も上手い。ピブラートを効かせてゆったり歌う。

我々もコンパーメントの座席上下2段に鈴なりで一緒に歌う。「太好了！再一遍再一遍」と、1時間以上教えてもらう。とりあえず自信はついた。

ホームステイでは、富財家にお世話になった。普通語・大同語・英語・筆談と、たがいに知っているすべてを駆使してのコミュニケーションである。

太太(奥さん)はかいがいしく我々の面倒を見てくれ、料理に腕を振るってくれる。富の親父さんは、しきりに白酒を振舞ってくれる。英語の先生を

している娘さんが我々の世話をするため帰ってきてくれた。我々が滞在している間、隣近所や親戚が訪れいろいろやり取りをする。結局、筆談が一番確実にお互い理解できる手段であった。

黄土高原に生きる人々と一緒になったの植樹作業は、貴重な体験になった。我々にとってはひと時のボランティア活動でしかなかったが、現地の人々にとっては生活を維持していくための戦いである。植樹した樹が大きく育ち黄土高原を緑に塗りつぶせたら、どんなにすばらしいロケーションになるだろう。今回お世話になったGENの皆様他、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。再度訪れることができることを願って。非常感謝、再見！

【大同川柳】

村人の笑顔 杏の花 満開
黄土から 伸びる 少年少女の芽
石窟の仏 万人坑に ムンクの絵
雨ぞ降る さらば大同 置き土産

黄土高原史話 <7>

華北農耕文化の明と暗

「南船北馬」を代表例として、南北対比の四字熟語はゴマンとあるのに、東西対比の方は皆無といえるほど。東奔西走は対比ではないし、東辣西酸は南甜北咸とセットの言葉です。

中国語辞典を引いてみると、「南稻北粟（麦）」「南粒北粉」「南釜北鬲」「南糸北皮」「南板北弦」「南頓北漸」などなど。いつだったか機中で見た『西安日報』（？）に、「南傘北帽」と題するコラムがありました。

ではなぜ、東西対比に比べ、南北対比の四字熟語は圧倒的に多いのでしょうか。

考えてみると、これはなかなか面白い問題で、答えもいろいろあるでしょうが、南・北をどこで分けるかは、至って明瞭・明快。

秦嶺（陝西省） 淮河（江蘇省）を結んだ線、だいたい年間降雨量800mmラインに当たります。南からインド洋で大量の水分を含んだ空気が北上してきて多雨、ラインの北側はユーラシア内陸部の乾燥した偏西風により少雨、というわけ。

黄河流域の華北は、もちろん800mm以下。黄土高原は更にそれ以下。太行山脈の東南と西北で降雨量に違いが出ます。

ちなみに、秦嶺山脈で中国の南北を分けたのは前回ふれたリヒト・ホーフェンとW.ワグナー（1926）。淮河の南北で土質が異なり、農耕の形態に違いがみられると指摘したのはジョン・ロッシング・バツ

谷口 義介（摂南大学教授）

ク（1927）

新石器時代の華北では、龍山文化の段階に入り、アワ、キビを中心にコウリヤン、ムギ、イネと五穀が出揃い、家畜もイヌ、ブタ、ウシ、ニワトリにヒツジも加わって、北中国的な農耕文化が形成されました。

しかし、畑作栽培と家畜飼育に重点を置く限り、耕地面積の絶えざる拡大が人口維持のための基本原則。畑作栽培は連作障害を引き起こすので、一定の収穫量をあげるためには常に広い面積の耕地が必要ですし、何年かおきに休耕しなければなりません。家畜飼育も、収穫後の藁や茎を利用しますが、絶対的に豊かな草地の確保が必要。その意味では、両者は矛盾・競合関係にあります。

華北の農耕文化が偉大な黄河文明を築き上げたことは確か。

しかし今、黄土高原に行くと、山まで耕された畑（写真）や、わずかな緑を争う羊群を見るにつけ、華北農耕文化の宿命を思わないではいられません。



いますぐできる GENへの協力

会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動を支えてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

カササギの森にご参加ください！

1haの緑化費用5万円を一口として2000年秋から協力を募っているカササギの森は、現在までに114haのご協力をいただきました。

カササギの森の敷地は約600ha。植樹可能な地域はおよそ半分ですから、まだまだ余地はたっぷりあります。みなさんのご協力をお願いします。

緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんのお気持ちをわけていただけると嬉しいです。

ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円（送料270円別途）です。

絵はがき『中国・黄土高原』をご利用ください

橋本紘二さんの写真で制作しました。『春』『夏』『秋・冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット（8枚）500円（送料別）です。

写真集『中国黄土高原・砂漠化する大地と人びと』をご購入ください

橋本紘二さんの5年間の集大成です。図書館への購入希望も歓迎。東方出版発行、定価6,000円（税別）。GENでは送料込み6,000円で取り扱っています。

GEN自然と親しむ会 植生調査入門その2 標本づくり

1月の第1回では、一定区域内の樹木の調査を指導していただきました。

今回は植生調査の一環としての標本づくりを勉強します。前回同様、大阪市大理学部附属植物園で、園長の岡田博さんの指導です。成長の最盛期にある多種多様な植物たちの観察も楽しみ。

初心者歓迎。ぜひご参加ください。

日時：6月8日（土）10時～14時

場所：大阪市立大学理学部附属植物園

指導：岡田博さん（同植物園園長）

集合：午前10時に京阪交野線「私市」

駅前

参加費：一般500円、中学生以下200円（保険料を含む、入園料は含まない。入園料＝一般350円、中学生以下無料）

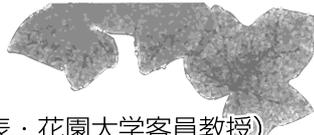
定員：30名

持ち物：弁当、飲み物、筆記用具、雨具、林の中を動ける服装・靴

申込締切：6月5日（水）

問合せ・申込み：GEN事務所まで

植物を育てる (16)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

種の多様性

単純に「多様性」といえば「単一」の反対語であるから、いろいろあるということになるが、「森林の多様性」では樹木や草本のいろいろの種類が多いということになる。植物の種類が多ければそれを当てにする動物相も増えることになる。だが重要なのはもっと細かく眺めて、ひとつの種類の中に「いろいろな個体」があることがより重要なことになる。その点で人間の作り出す「クローン生物」は多様性のまったくない生物である。それはそろっていて進化がない。生物はそろったことは滅びることと知っていて常に変化を求めている。

先号で植物多様性の仕組みについてのうち、おもに細胞分裂(減数分裂)時点で多様性が計られているのを述べた。ここではその次の段階で受粉・授粉受精で計られている自然の巧妙さについての先輩たちの研究をご紹介します。

雌雄異熟

植物には雌雄そろった花が多いが、雌・雄別々の花もある。また人間のよう雌・雄別々の株(個体)もある。雌雄そろった花を完全花というが、多様性を計るためには決して完全ではない。それは自花(家)授粉を起こしや

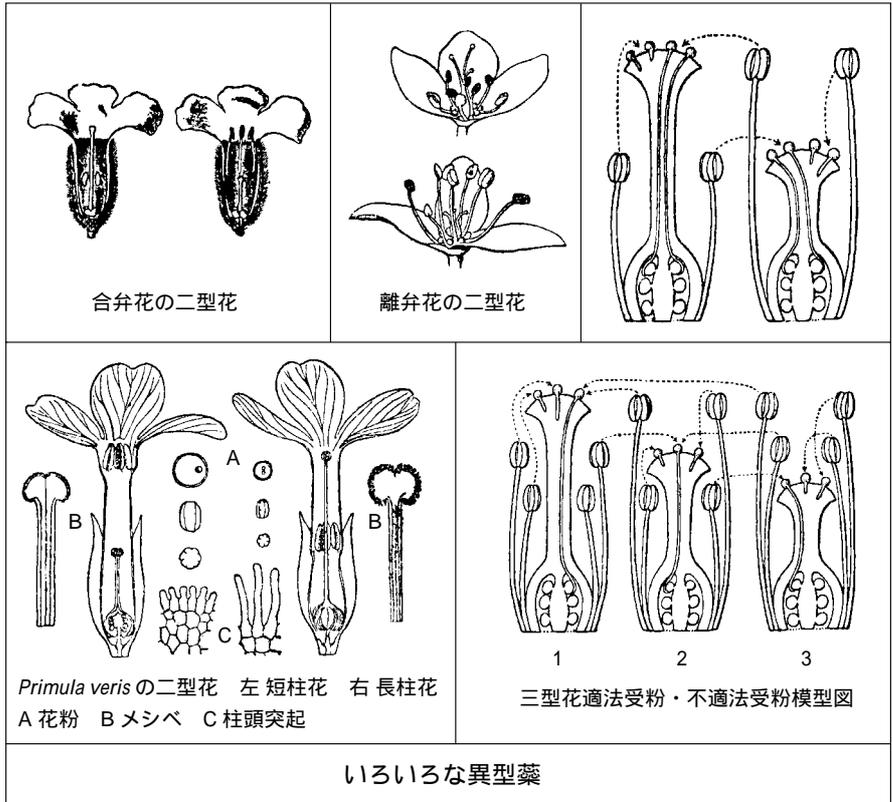
すいからである。自花(家)授粉よりも他花(家)授粉の方がより変異に富んだ子孫を生む種子ができるからである。さらに、他の系統や別種までを授粉されると雑種が生まれ、より変異に富んだ子孫が生じることになる。

そこでオシベが先に熟したり、メシベが花弁から飛び出したりして「自花

(家)授粉」を避ける仕組みをもつ植物がある。ツバキの中には蕾のうちにメシベが飛び出しているのがある。「メシベ先熟」の例である。

異型薬

完全花の中で、花によってはメシベが長く、オシベが短いものとか、その反対になったものがある(図参照)。また昆虫たちに他花(家)授粉を助けてもらうために、餌として食べてもらうのが目的の花粉をもつものがある(サルスベリ)。これらはみな植物の生き残り作戦のひとつなのである。



いろいろな異型薬

2002 夏の黄土高原ワーキングツアーのご案内

今春の黄砂の飛来で、黄土高原を思い出した方もおいででしょう。その源である大同も、例年になく風砂がひどかったそうです。雨は比較的降ったそうですから、春に植えた木たちは元気に育っているのでしょうか。

夏のワーキングツアーでは、大同市の北部を中心にまわる予定です。村の人たちといっしょに汗を流しての植樹作業や交流、ホームステイもあります。「カササギの森」や地球環境林センタ

ーでの活動もGENのツアーならではの「よし、行ってみよう」という方は、早めにお申し込みください。

【2002夏の黄土高原ワーキングツアー】

日程：7月26日(金)～8月2日(金)

費用(予定)：一般＝195,000円、学生＝185,000円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ピザ取得費用、GEN年会費ふくむ)

中国国際航空利用 関西国際空港発着 成田空港発着便利用の方

は17,000円高くなります。成田便は中国東方航空を利用します。

定員：30人

締切り：6月26日(定員に達し次第締め切ります)





地球緑化講座（第10回）
黄土高原 緑化協力の10年

GENのツアーで行かれた大同や、内蒙古で緑化活動に参加、地元でも勉強会などの活動をつづけておられる宮本さんが、第10回の講座に講師として高見事務局長を招いてくださいました。

日時：6月29日（土）14時～17時
（受付13時から）

場所：町田市民フォーラム 3F 視聴
覚室（JR「町田」駅北口徒歩2分、
小田急「町田」駅東口徒歩5分）

資料代：500円（高校生以下無料）

主催：“地球に緑を” 武相友の会
（TEL.042-796-3858・宮本）

講師：高見邦雄（GEN事務局長）

土佐小夏をどうぞ

今年も小夏の季節がやってきました。
初夏の味覚をお楽しみください。

小夏（低農薬有機栽培）

M 5kg 3,500円

L 5kg 3,800円

送料別途。関西630円、関東840円

（20kgまで）

出荷は5月下旬まで。

お申し込みは田中隆一さんまで
〒781-7412 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL./FAX. 0887-29-2500

売上げの一部をGENにご寄付いた
だいでいるので、ご注文の際は
「GENの紹介」とひとこと添えてく
ださい。



編集後記

南半球の話題をふたつ。ひとつめは
映画『ロード・オブ・ザ・リング』。
ロケ地のニュージーランドの美しさ
に見とれてしまいました。多彩な風景と
豊かな自然が残されているのですね。

この映画の原作『指輪物語』は出版
から50年近くになりますが、少し後
に出た『渚にて』という破滅SFの傑作
を、いまごろ初めて読みました。核戦
争で北半球が壊滅した後、放射能汚染
がじわじわと南半球にも広がり...とい
うお話です。メルボルン近郊が舞台で、
書かれた時代のせいなのか、オースト
ラリア人の性格なのか、終末を前にパ
ニックも暴動もなく静かに日々を過
す登場人物たちの態度が印象的でした。

いまじわじわと私たちに迫ってき
ているのは地球温暖化？ 春以来つづ
おかしな気候になんともなく落ち着か
ない気分です。
（東川）